

全体総括

○計画期間：平成27年4月～令和2年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

平成27年4月以降、認定基本計画に基づき、「400年の歴史を超えた城下町ルネッサンス」～ALL UEDA で中心市街地の価値を共有し活性化を図る～を目指して各事業を実施したところ、中心商店街に若い世代の人々が創業及び新規出店し、固定客を確保するなど、賑わいが創出された。

特に駅から直線に延びる松尾町商店会では、流行りのタピオカ屋、カフェ・バー、カフェレストランが連なって次々と出店したほか、海野町商店会では、コワーキング施設、劇場スペースとゲストハウスを合わせ持つ交流施設ができ、原町一番街商店会では、真田十勇士ガーデンプレイスとして展示・イベント施設が出来るなど、まちなかの賑わいが創出され、人々が自然と集まってくることによって、街の雰囲気明るくなったと感じられる。真田十勇士ガーデンプレイスでは、定期的に展示・イベントを開催することで、年間2万人程の集客があり、まちなかのにぎわい創出に大きく寄与している。また、各商店街が実施しているビアガーデン、ワインフェスタ、フードサミットなど飲食イベント、年末セールなどの消費喚起イベント、七夕などの季節イベントは、市民が楽しんで参加できるイベントとして定着しており、まちなかの賑わい創出に大きく貢献している。

平成26年にオープンした芸術文化施設「サントミュージゼ」においても展覧会事業の充実やワークショップ・イベント等教育普及関係事業の充実により、年々来館者数は増加傾向にあり、平成30年度には、入館者数が201,395人と20万人を突破した。また、原町一番街商店会には優良建築物等整備事業により、分譲マンションが新たに建設され、中心市街地の居住人口の増加につながっている。

一方で、平成28年に放送されたNHK大河ドラマ「真田丸」の終了後、観光客の入込数が減少したほか、歩行者通行量は伸び悩んでおり、居住人口の増加と平常時の歩行者の増加により、商業活性化を図ることが課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度10月1日）

（中心市街地 区域）	平成26年度 （計画前年度）	平成27年度 （1年目）	平成28年度 （2年目）	平成29年度 （3年目）	平成30年度 （4年目）	令和元年度 （最終年度）
人口	7,171人	7,185人	7,157人	7,135人	7,121人	7,036人
人口増減数	—	14人	▲28人	▲22人	▲14人	▲85人
自然増減数	—	▲44人	▲74人	▲85人	▲76人	▲76人
社会増減数	—	41人	28人	60人	81人	▲5人
転入者数	—	582人	588人	611人	722人	649人

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた事業は、中心商店街の活性化等を中心に、概ね順調に進捗・完了したといえる。

一方で、中心市街地の居住人口の増加については、計画されていた優良建築物等整備事業における分譲マンションが、一部地権者からの合意が得られない理由で一時的に凍結状態となり、平成27年度7,185人 ⇒ 令和元年度(最終年度)7,036人と計画を若干下回っており、少子高齢化等により居住人口の減少傾向が続いている。また、それに伴って歩行者通行量も伸び悩んでいる。

ただし、このような状況においても、新規出店者がテナントの用に使用するための改修・改築費に対する補助や賃借料に対する補助を行い、また、あらたにチャレンジショップを開設するなど、中心商店街の活性化に努めた結果、空き店舗の解消につなげることが出来た。

特に市、商工会議所、長野県宅地建物取引業協会 上田支部が連携して「上田まちなか空き店舗バンク」を創設し、民間のノウハウを活用した物件情報サイトや空き店舗見学会などの開催、経営指導員の創業支援等をあわせて行った結果、平成29年には37件までに増加した空き店舗が、令和元年度(最終年度)27件と減少し、目標を達成することが出来た。

また、新たな多世代交流拠点として、上田市立美術館を含む、交流文化芸術センターが竣工したことにより、市内外から多くの来街者を集めるようになった。その他、中心商店街に計画されていた優良建築物等整備事業における分譲マンションの内、一棟が完成するなど民間投資を活用した官民連携による中心市街地の活性化の取組が進んだ。

さらに、北国街道の街並みを残す柳町商工振興会では、エリア的には狭い地域であるものの、店主の世代交代や移住者による出店等により若返り、観光バスの誘致を行い街の活性化に積極的に取り組んでいるなど、新たな活力や魅力が創出されている。

また、居住人口や歩行者通行量は減少しているものの、託児所を併設し、働く女性に仕事を発注する仕組みが整備されている「Hanalab.UNNO」のコワーキングスペースや劇場とゲストハウスを持つ「犀の角」など、時代のニーズに応じた施設が中心商店街に賑わいを持たしており、子育て世代を中心とした移住・定住の促進や創業セミナーの開催等により、人口の社会増は平成27年度以降増加傾向にあり、計画期間中は205人の増加となった。

こうした状況を勘案し、中心市街地においては若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

上田市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら中心市街地活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業等は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地内において、賑わいのまちづくり事業、中心商店街空き店舗活用助成事業、テナント出店支援事業等のソフト事業の実施の効果もあり空き店舗数は減少傾向に転じ、中心市街地活性化に相当程度の効果があったものと評価できる。

一方、計画されていた優良建築物等整備事業など、地権者との調整がつかず完了していない事業もあり、計画書に掲げた3つの数値目標についても、「空き店舗数」は目標値を達成できたが、「居住人口」は、基準値より約 2%悪化しており、「歩行者通行量」についても、平成28年度は、NHK 大河ドラマ「真田丸」の影響もあり、目標値を大きく超えたが、揺り戻しにより目標値を達成できず、買い物等普段使いの商店街の機能を高めることが、今後の課題となっている。

今後は、効果のあった事業を引き続き進めながら、行政、商工団体、市民と一体となって、中心市街の活性化の重要性の理解や参加を促しつつ、中心市街地活性化に取り組む所存である。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

上田市住民アンケート

調査日：令和元年7月1日(月)から令和元年7月23日(火)

調査方法：市内18歳以上の住民5,000人を対象に無作為抽出

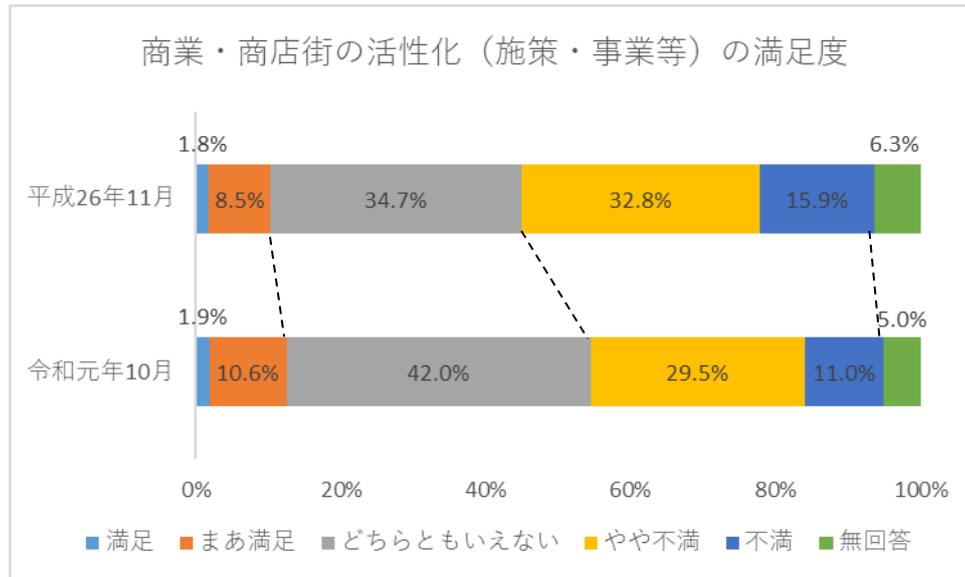
配送方法 郵送による配布 回収方法 郵送あるいはWEBによる回答

有効サンプル数：回答者数 1,987人

回収率 39.7%

令和元年7月に実施した市民アンケートの結果によると、商業・商店街の活性化について「満足、又は、まあ満足」と回答した割合が、平成26年のアンケート結果と比較して2.2%上昇(10.3%→12.5%)するとともに、「不満、又は、やや不満」と回答した割合が8.2%減少(48.7%→40.4%)するなど、市民意識は改善傾向が見られた。このことから、計画策定時と比べて若干の活性化は図られたものとする。

一方で、「不満、又は、やや不満」との回答した割合は約4割と依然高い水準にあるため、引き続き市街地の活性化に向けた取り組みを積極的に進める必要がある。



6. 今後の取組

本計画で実施した賑わい創出の効果を一過性のものとせず、継続的な取組により中心市街地の活性化を進めていくことが重要である。

また、市民アンケートからも、住みやすさについて、買い物などの日常生活が便利と回答する人が大半を占めているにもかかわらず、まさに賑わいや魅力があると回答した人は相対的に少ないため、活性化に向けた一層の取組が必要である。

今後は、計画の成果を活用しながら、引き続き行政、商工団体、商店街振興組合等、関係機関が一体となって中心市街地の魅力をさらに高め、中心市街地の財産的価値を再認識し、刷新していく努力を続けていく。

具体的には、新参町線の電線地中化事業に伴う「まちなか環境整備事業」や「歴史的風致維持向上計画」、海野町地区の優良建築物等整備事業等によって、各地区の集客拠点を整備するとともに、中心市街地空き店舗情報バンクや商店会振興組合、商店会連合会が企画し、中心市街地で開催する各種イベント事業等により、まちなかの賑わい創出と中心商店街等への出店を支援することで、回遊性等の向上を図っていく。

今後も効果を継続していくことが重要であることから、中心市街地活性化協議会とまちづくり上田株式会社を存続し、歩行者通行量と空き店舗に関する調査は、現状と同じ頻度で継続するなど、目標の達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCAサイクルで事業を見直していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値の 80%	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
居住満足度の高い 安全・安心な中心 市街地の形成を進 める。(生活快適都 市)	中心市街地の 居住人口	7,171 人 (H26)	7,210 人 (H31)	7,202 人 (H31)	7,036 人	令和元年 10 月	<u>c</u>
市民、事業者等が 連携した活動によ り地域活力の向上 を図る。(域内交 流)	中心市街地の 歩行者通行量	21,530 人/日 (H26)	24,900 人/日 (H31)	24,226 人 /日 (H31)	16,016 人/ 日	令和元年 10 月	<u>c</u>
地域経済の活性化 (域外交流)	中心商店街の 空き店舗数	30 件 (H26)	27 件 (H31)	28 件 (H31)	27 件	令和元年 10 月	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の 80% を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の 80% には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の 80% を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の 80% には及ばず。)

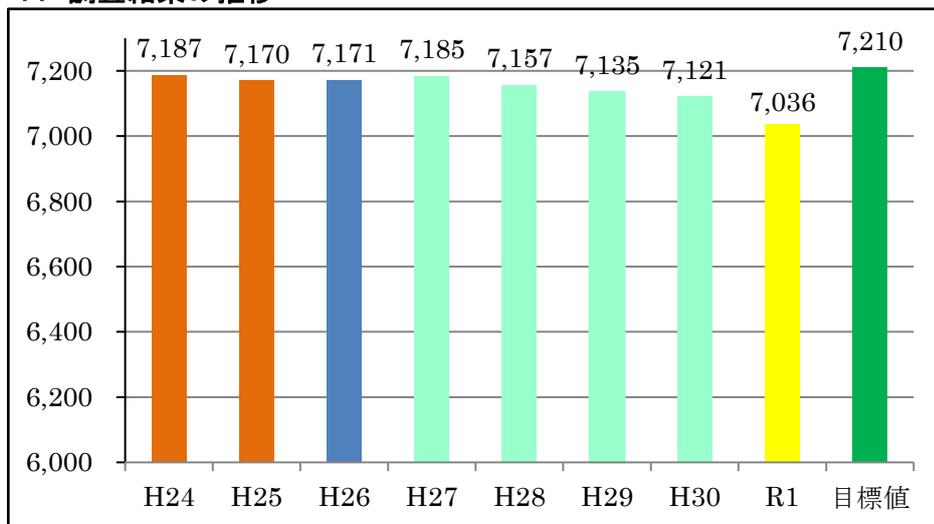
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「中心市街地の居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P65～P67 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H26	7,171 (基準年値)
H27	7,185
H28	7,157
H29	7,135
H30	7,121
R元	7,036
R元	7,210 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳に基づき中心市街地区域内の居住人口を調査

※調査月：令和元年10月1日現在

※調査主体：上田市

※調査対象：中心市街地区域内の居住人口

2. 目標の達成状況【c】

原町一番街地区における優良建築物等整備事業は、平成30年度に完成し、居住人口が増加した一方で、海野町商店会地区における優良建築物等整備事業においては、一部地元地権者との協議が整わず、一時凍結となり事業が進捗しなかったため、計画通りの目標値を達成できなかったため、cとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 優良建築物等整備事業（原町一番街地区）（穴吹興産株式会社）

事業実施期間	平成28年度～平成30年度【済】 [認定基本計画：平成28年度～平成29年度]
事業概要	老朽化が進む中央二丁目（原町）の共同ビルを建替え、1階は店舗2店、2～10階は分譲マンション36戸を整備。鉄筋コンクリート造、地上10階建、敷地面積868.94㎡。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） （国土交通省）（平成28年度～平成29年度）
目標値・最新値及び達成状況	本事業実施により、100人程度の居住人口増が見込まれていたが、現状、住民票ベースで70人ほどになっている。
達成した（出来なかった）理由	家族等複数人での入居を想定していたが、法人等による社宅としての所有や単身世帯の入居が一定程度あったことで、1戸あたりの平均人数が少なくなったと推測される。
計画終了後の状況（事業効果）	平成30年6月竣工、すべての住戸が完売済みで7月下旬から入居が開始された。居住人口100人の増加が見込まれていたが、現状、住民票ベースで70人ほどになっている。
事業の今後について	本マンション1階テナント部分に2店舗が入居したことにより、今後、賑わいのある商業環境の形成が期待され、中心市街地の歩行者通行量増加が期待される。

②. 優良建築物等整備事業（海野町商店会地区）（民間事業者）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成 29 年度～]
事業概要	老朽化が進む複数の店舗（一部共同ビル）を建替え、1 階には店舗、高層部は共同住宅の分譲マンションを整備。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	本事業実施により、100 人程度の居住人口増が見込まれているが、事業の遅れにより居住人口の増には至っていない。
達成した（出来なかった）理由	地権者をはじめとする関係者の合意形成が進められていた中で、一部地権者からの合意が得られない理由により、一時的に凍結状態となっていたため。
計画終了後の状況（事業効果）	地権者をはじめとする関係者の合意形成が進められていた中で、一部地権者からの合意が得られない理由により、一時的に凍結状態となっていたが、他事業者により再度、地権者との調整協議が開始されている。
事業の今後について	上田駅にも近い立地で商店街の中央に位置し、他商店街と相まって賑わいを形成する拠点に位置し、事業の完了後には居住人口 100 人以上の増加が見込まれる。また、1 階への店舗入居により、賑わいのある商業環境の形成が期待され、中心市街地の歩行者通行量の増加も期待される。

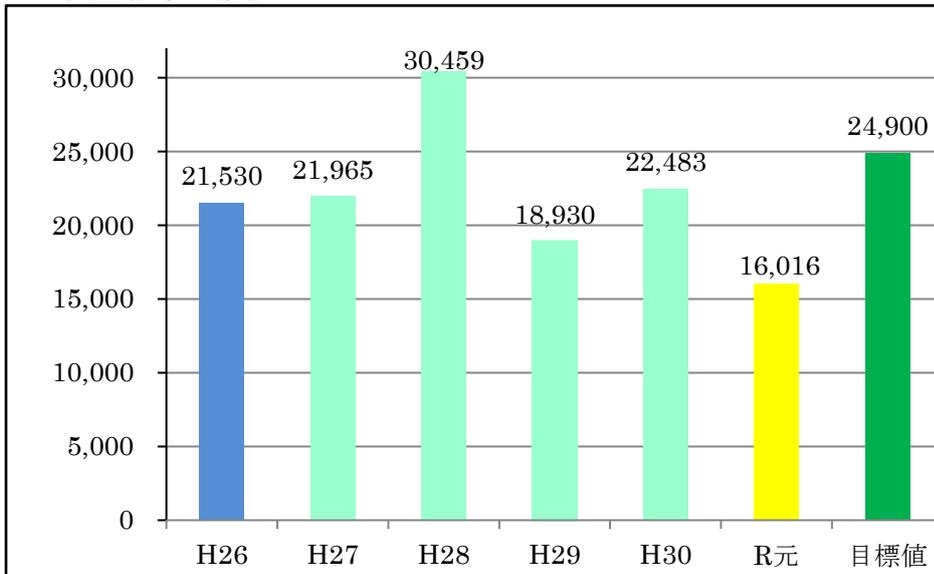
4. 今後の対策

目標達成に向けた主要事業である優良建築物等整備事業は、海野町商店会地区の計画が期間内に完了しなかったため、計画当初に見込んでいた効果が得られなかった。一方で原町一番街地区の優良建築物等整備事業は、老朽化が進む原町商店会の共同ビルの建替えにより、1 階には店舗、高層部は共同住宅の分譲マンションで、居住人口の増加に効果があったことから、引き続き、地元不動産業者が地権者とで協議を再開している優良建築物事業や、また、海野町地区の他場所でも進んでいる民間事業の分譲マンション建設など、再開に向けた取組を推進するとともに、各地区の魅力を高めていく。

また、移住交流課が進める移住定住施策とも連携する中で、中心市街地の多様な都市機能の利用者を増やすことで、住宅供給やまちなかの居住を進める施策等を展開していく。

「中心市街地の歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P67～P74 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H26	21,530 (基準年値)
H27	21,965
H28	30,459
H29	18,930
H30	22,483
R元	16,016
H31	24,900 (目標値)

※調査方法：歩行者通行量調査

※調査月：令和元年10月実施

※調査主体：上田商工会議所

※調査対象：平日の21地点 10時～19時の歩行者の通行量

2. 目標の達成状況【 c 】

歩行者通行量の増加に向けた各事業については、おおむね予定どおり完了した。平成28年度には、NHK大河ドラマ「真田丸」の放送の影響により、また、それに備えた上田城跡整備事業や上田城跡公園駐車場整備事業の効果もあり、上田城跡公園は、地域の魅力と活力を創るシンボル施設、かつ文化と交流の新拠点として、中心市街地街の賑わい創出と回遊性に寄与し、飛躍的に歩行者通行量が増加し、目標値を上回った。

しかし、平成29年度には、歩行者通行量調査日前後で台風が上陸するなど悪天候の日が多く、雨天での測定になったことや、「真田丸」の効果も一区切りとなり落ち込みが見られた。その後、中心商店街空き店舗活用助成事業、テナント出店支援事業に対する助成の効果により、歩行者通行量は増加し、平成30年度においては、平成28年度を除いて過去最高の通行量となった。

しかし、優良建築物等整備事業の一部事業の進捗が遅れたため、民間事業と連携した空き店舗バンク制度の創設や、まちなかチャレンジショップ等の新規事業を創設し、また、商店街のイベントや各店舗の情報を掲載する中心商店街総合ウェブサイト「上田まちなか商店街」の充実を図り、情報発信を含めた総合的な取組の実施により、買い物や散策ができるよう、さらなるまちなかの賑わい創出を図ったが、最終年度の歩行者通行量調査日が台風に当たったこともあり、目標は達成できなかったため、cとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 優良建築物等整備事業（原町一番街地区）（穴吹興産株式会社）【再掲】

事業実施期間	平成 28 年度～平成 30 年度【済】 [認定基本計画：平成 28 年度～平成 29 年度]
事業概要	老朽化が進む中央二丁目（原町）の共同ビルを建替え、1 階は店舗 2 店、2～10 階は分譲マンション 36 戸を整備。鉄筋コンクリート造、地上 10 階建、敷地面積 868.94 m ² 。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） （国土交通省）（平成 28 年度～平成 29 年度）
目標値・最新値及び達成状況	10 階建て（1 階店舗 2～10 階マンション）36 部屋で本事業により整備される住宅への入居者目標値 100 人に対して、計画通り完成はしたものの、住民票の有無で算出すると 70 人の居住となっており、30 人目標値を下回ったため、歩行者通行量も 134 人／日の増加目標に対して、△1,955 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	1 世帯あたり、2.8 人の居住を見込んでいたが、住民票の有無で算出すると 1 世帯あたり 2 人であり、当初見込んでいた若い世代の家族が少なく、年配夫婦や単身世帯の入居が多かったこと等による。また、調査日が台風時と重なり、歩行者通行料が減少してしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 30 年 6 月竣工、すべての住戸が完売済みで 7 月下旬から入居が開始された。居住人口 100 人の増加が見込まれていたが、現状、住民票ベースで 70 人ほどになっている。
事業の今後について	1 階への店舗入居により、賑わいのある商業環境の形成が期待され、中心市街地の歩行者通行量の増加が期待される。

②. 優良建築物等整備事業（海野町商店会地区）（民間事業者）【再掲】

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成 29 年度～]
事業概要	老朽化が進む複数の店舗（一部共同ビル）を建替え、1 階には店舗、高層部は共同住宅の分譲マンションを整備。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	10 階建て（1 階店舗 2～10 階マンション）36 部屋で本事業により整備される住宅への入居者目標値 100 人を計画していたが、事業未実施のため 0 人となったため、歩行者通行料も 167 人／日の増加目標に対して、△1,438 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	全ての地権者の合意が得られず、事業計画が凍結されたことによる。また、調査日が台風時と重なり、歩行者通行料が減少してしまった。

計画終了後の状況 (事業効果)	地権者をはじめとする関係者の合意形成が進められていた中で、一部地権者からの合意が得られない等により一時的に凍結状態となっていたが、他事業者により再度、地権者との調整協議が開始されている。
事業の今後について	上田駅にも近い立地で商店街の中央に位置し、他商店街と相まって賑わいを形成する拠点に位置し、事業の完了後には居住人口 100 人の増加が見込まれる。また、1 階への店舗入居により、賑わいのある商業環境の形成が期待され、中心市街地の歩行者通行量の増加も期待される。

③. 史跡上田城跡整備事業（上田市）

事業実施期間	平成 2 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	史実に基づく上田城跡の保存・活用方針を定めた「保存管理計画」と櫓や武者溜りなどの復元方策を示した「整備基本計画」に基づき、本丸櫓の復元など、国指定史跡である上田城跡を国、県、上田市、所有者が一体となって進める。
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁） （平成 27 年度～平成 30 年度） [認定基本計画：史跡等公有化事業費補助金（文化庁）]
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 1,200 人／日の増加目標としており、平成 28 年度には NHK 大河ドラマ「真田丸」の放送の影響もあって目標値を大幅に超えたが、放送終了後の観光バスの減少等、観光客の減少に伴い、△1,046 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	NHK 大河ドラマ「真田丸」の放送の影響を継続させる仕組みや、上田城跡公園を訪問した観光客等を中心市街地に回遊させる仕掛けが不足していた。また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況 (事業効果)	上田城は上田市のシンボルであり、歴史と憩いの拠点として、多くの観光客が訪れるとともに市民の憩いの場でもある。本計画期間中には NHK 大河ドラマ『真田丸』放送に伴う大河ドラマ館の設置や特別企画展の開催、発掘調査の継続・公開や各種イベントの実施などにより、平成 28 年度には年間 150 万人を超える集客があり、歩行者通行量も 1 日 3 万人を越すなど、回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	今後も、歴史的な背景や交通の利便性といった上田城跡の優位性を生かしながら、各種ソフト事業を効果的に実施することで、集客力や中心市街地の回遊性向上を図る。

④. 観光交流センター（まちの駅）設置運営事業（上田市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	真田十勇士ガーデンプレイスの名称のもと、上田市の観光案内や観光トイレの機能を持たせ、さらに平成 28 年 NHK 大河ドラマ「真田丸」の関連資料の展示等、様々な企画展を開催するほか、賑わいづくりイベントなど、商店街の活動にも積極的に活用することで、街中観光交流の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し

び支援期間	
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 1,600 人／日の増加目標としており、イベント開催時等には 2,000 人／日以上増加があったものの、△1,342 人／日と下回り、未達成となった。
達成した(出来なかった)理由	上田城跡公園を訪問した観光客等を中心市街地に回遊させる仕掛けが不足していた。また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況(事業効果)	開館 1 年目は、大河ドラマ「真田丸」の放送期間中であったことから、真田氏や真田十勇士を題材とする展示やイベント等を 60 回以上開催し、43,000 人以上の来場者があった。真田丸放送後は、来場者数が減少しているものの、商店街組織及び商工会議所主体のイベントにより、商店主同志のコミュニケーションが図られ、活力ある商店街づくりが進んでいる。
事業の今後について	今後も賑わいのある商店街づくりの拠点として活用し、企画展やイベント等の充実を図ることで、観光客や地元住民を惹きつける魅力づくりに努め、中心商店街への誘致や集客力向上により、中心市街地の回遊性を向上させる拠点とする。

⑤. 上田城跡公園周辺駐車場整備(上田市)

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	上田城跡公園は千本桜まつりや紅葉祭りをはじめ多くの市民や観光客が訪れ、イベントの際には駐車場が不足していることから、駐車場整備を行うことで、来園者の利便性を向上させ、中心市街地の拠点として賑わいを創出して回遊性を高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 800 人／日の増加目標としており、大河ドラマ「真田丸」放送時やイベント開催時等には目標を大幅に上回る通行量があったものの、△792 人／日と下回り、未達成となった。
達成した(出来なかった)理由	上田城跡公園を訪問した観光客等を中心市街地に回遊させる仕掛けが不足していた。また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 28 年の大河ドラマ「真田丸」放送期間中の際には、城跡公園内のドラマ館に 100 万人以上の観光客が訪れるなど、駐車場不足や渋滞が懸念されたが、事前の駐車場整備により相当台数(19.7 万台)の受け入れが出来たため、大きなトラブルもなく過度な渋滞を防ぐことが出来た。また、その後も放送中の勢いはないものの、観光客や公園等中心市街地を訪れる市民が継続的に利用しており、令和元年度も 17.7 万台の利用があるなど同駐車場の果たす役割は大きい。
事業の今後について	今後は、駐車場からの回遊性を促進することで、上田城跡公園から中心商店街への誘客を図り、歩行者通行量の増加を目指す。

⑥. 子育て中の女性がいきいきと働くための環境整備事業（上田市・（一社）ルーフサンパチ）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	海野町商店街の空き店舗を改修し、子育て中の若い母親を対象としたコワーキングスペース、利用者のための託児所、キッチンスタジオを備えたコミュニティ施設を整備。女性の創業や就労による社会復帰を支援している。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 480 人／日の増加目標に対して、△450 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	若い母親が立ち寄る魅力ある商店が少ないことで、回遊性が低く、また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	中心商店街の空き店舗を借り上げ、子育て中の女性が生きがいを持っていきいきと働ける環境を提供することにより、長年にわたる大規模な空き店舗の解消が図られ、空き店舗数の減少 1 件に寄与している。
事業の今後について	民間団体の努力により活動の自立化・拡大が順調に進んでおり、同拠点の一層の発展とそれに伴う集客拡大が期待される。

⑦. コミュニティ施設等整備事業（柳町商工振興会）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成 30 年度～平成 31 年度]
事業概要	旧北国街道が通る柳町は、江戸時代からの建物が多く現存し、文化と歴史の佇まいを今に残す稀有な商店街であるが、空き店舗も増加し、地域コミュニティの担い手としての機能が低下してきているため、柳町の空き店舗を活用し、コミュニティ等の用に供する施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 200 人／日の増加目標に対して、△208 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	施設の整備が進まず、また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	施設の整備については、商工振興会や関係者との協議が今後必要であり、時間を要するが、商工振興会においては旅行会社とタイアップして観光バスの受け入れを積極的に行っていることから、観光客の入込数が増えており、歩行者通行量の増加に寄与している。
事業の今後について	観光客も増えてきていることから、駐車場や観光施設の整備が課題となってきているため、さらなる賑わいのあるまちづくりのための施設の整備及び充実を図るとともに、他商店街とも連携して相乗効果を生み出すことで、中心市街地の回遊性を向上させる。

⑧. 交流文化芸術センター運営事業（上田市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	市の有する地域文化や歴史的、文化的遺産等の資源を活用し、子どもたちの育成を行う事業やコンサートなどのイベント事業を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 200 人／日の増加目標に対して、△934 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	調査地点において、上田城跡公園前は増加したものの、駅前地点が台風の影響により、歩行者通行料が減少してしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	地域の魅力と活力を創るシンボル施設であり、「文化と交流の新拠点」として、中心市街地の賑わい創出と回遊性に寄与している。平成 30 年度には、入館者数が 201,395 人と 20 万人を突破した。令和元年度は、令和元年度東日本台風の影響やコロナウイルス感染拡大による講演等の中止もあり、入館者数が 185,978 人と前年比で減少に転じたものの、当該事業が新たな来街者の増加に寄与していると考ええる。
事業の今後について	今後も魅力ある企画展等の開催、誘致に努め、集客力向上や中心市街地の回遊性向上を図る。

⑨. 上田市立美術館事業（上田市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	JT 開発地に整備された市立美術館を地域の魅力と活力を創るシンボル施設として位置づけ、地域の歴史的、文化的遺産等の資源を活かすとともに、様々な文化事業による誘客により、まちの賑わいと活気をもたらし、観光や商業、地場産業等の地域経済に対する効果を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 200 人／日の増加目標に対して、△934 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	調査地点において、上田城跡公園前は増加したものの、駅前地点が台風の影響により、歩行者通行料が減少してしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	展覧会事業の充実やワークショップ・イベント等教育普及関係事業の充実により、年々来館者数は増加傾向にあり、令和元年度においては、展覧会 12 回を開催し、41,000 人以上の来館者数があった。また、大人のアトリエ講座、子どものアトリエ事業等においては、約 3,200 人の参加があった。
事業の今後について	今後は、観光客も呼べる企画展の充実や、多くの市民が参加できるワークショップ等、魅力ある事業を実施していくことで、駅からの通行量の増加や美術館からの中心商店街への通行量の増大など回遊性を高めていく。

⑩. 街なか健幸ウォーク事業（上田市商工会連合会）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の歩行者通行量を増加させるために、まち中ウォーキングマップを作成し、真田十勇士像を巡るスタンプラリーやトイレの設置場所のほか、歩いた場合の距離・消費カロリーなど、健康に役立つ情報を提供し、市民や観光客を安心して、楽しい街なか散策に誘導する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 260 人／日の増加目標に対して、△4,307 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	市民や観光客が楽しんで街なかを散策するための、コンテンツの作り込みや情報発信が不十分であったが、イベント時には、目標値を達成できる集客があった。また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 27 年度には、独立行政法人国立病院機構信州医療センターの協力を得て血管年齢を計測するイベントを開催し、約 300 人の参加があった。マップを商店街施設、市役所や会議所の窓口に設置し PR に努めているが、真田十勇士像スタンプラリーを親子一緒に巡るケースが多い状況である。
事業の今後について	健康を意識する人々が増えてきていることから、ウォーキングコース内の各商店の特長的な商品・サービスを発信する中心商店街総合ウェブサイト「上田まちなか商店街」とも連携しながら、楽しみながら商店街を歩ける情報発信に努め、中心市街地の回遊性を向上させる。

⑪. 映画のまちロケ地ツアー事業（実行委員会）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	市においては、信州上田フィルムコミッションを組織し、ロケ地マップを作成するなどして積極的な誘致活動を行っている。映画やアニメを通じて、ロケ地や聖地めぐりによる観光振興を促進し、地域活性化を図ることで、中心市街地の歩行者通行量を増加させる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 160 人／日の増加目標に対して、△1,988 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	IT 等を活用して、ロケ地としての魅力を十分に情報発信することが不足していた。また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地でも多くのロケ地があり、代表作であるアニメ映画「サマーウォーズ」や映画「晴天の霹靂」など、ロケ地巡りを目的とした観光客は増加傾向にある。
事業の今後について	引き続き、首都圏との交通利便性や晴天率の高さなど映画ロ

て	ケ地としての優位性を武器とする映画ロケ誘致を推進するとともに、アニメ映画「サマーウォーズ」の知名度を生かした企画や、IT・デジタルを活用したロケ地・聖地巡りを促すコンテンツの開発などにより、市内各所とも連携した中心市街地への回遊性向上を図る。
---	---

⑫. 近代化産業遺産ツアー事業（上田市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	群馬県の富岡製糸場が、世界遺産に登録されたことを契機に製糸関連の近代化産業遺産が見直されている。当市においても蚕都として経済的に発展した歴史を伝え、今もなお現役で利用されている貴重な建物等、近代化産業遺産が現存するため、蚕糸業の歴史や古い建築に興味がある人たちに向けた歴史や建物を巡る探訪ツアーを通じて、中心市街地の歩行者通行量を増加させる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 120 人／日の増加目標に対して、△2,135 人／日と下回り、未達成となった。
達成した（出来なかった）理由	近代化産業遺産としての価値訴求が出来ておらず、民間施設で、かつ現在も会社として使用されているため、様々な制限があり、自由な利用ができず、所有者との合意形成も難しい状況にある。また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 29 年には、当時天皇・皇后であった明仁上皇・美智子上皇后が、2 週に渡って当市の中心市街地に存在する地近代化産業遺産であり、かつ国の重要文化財指定を受けている旧常田館製糸場及び信州大学織学部を訪問されたことから、市民を含む多くの人々が蚕都上田としての価値を認識したところである。また、経済産業省が進める絹の道広域連携プロジェクトにも参加する中で、絹の道めぐり旅スタンプラリーにも協賛し、個人客や団体バス客等が訪問している状況である。
事業の今後について	今後においても、中心市街地の回遊性を高める市の重要な拠点施設と位置付け、上里サービスエリアでのイベント等、絹の道広域連携プロジェクトに引き続き参加する中で、スタンプラリー冊子の効果的な配布や、市の伝統産業である上田紬とのつながりをコーディネートするなど、新たな視点を取り入れて活性化を図り、歩行者通行量を増加させる。

⑬. 街中等観光ガイド運営（一般社団法人信州上田観光協会）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 29 年度【済】 [認定基本計画：平成 27 年度～]
事業概要	NHK 大河ドラマ「真田丸」の放送の決定に伴い、上田市に訪問する観光客は増加すると見込まれることから、中央商店街のエリアの中に観光案内所を設け、観光客への効率的な観光案内サービスを提供するとともに、市街地への回遊を促すもの

	とする。また、上田城櫓門前にてシルバー人材センターを活用した常設的な観光ガイドを設置運営し、物語性とおもてなしの受け入れ体制を整備することで、中心市街地の回遊性向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 600 人／日の増加目標に対して、△2,718 人／日と下回り、未達成となった。
達成した(出来なかった)理由	NHK 大河ドラマ「真田丸」の放送時は、目標値を大幅に超えたが、その効果を継続させる仕組みや、上田城跡公園を訪問した観光客等を中心市街地に回遊させる仕掛けが不足していた。また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況(事業効果)	NHK 大河ドラマ「真田丸」放送の際には、多くの観光客が中心商店街に訪れたため、観光案内を求める需要に対して、有効かつ効果的に案内を行うことができ、中心市街地の回遊性を高めることに貢献した。また、観光客とのコミュニケーションが図られることによってリピーターの増加にも寄与したと考えられる。
事業の今後について	今後は、SNS 等インターネットを活用しながら中心商店街の情報などを積極的に発信し、上田城跡公園内だけでなく、中心市街地全体への回遊性向上を一層推進していく。

⑭. 市街地新循環バス運行事業(上田市)

事業実施期間	平成 28 年度～平成 31 年度【実施中】 [認定基本計画：平成 27 年度～]
事業概要	中心市街地のうち、上田駅、上田城跡公園、中心商店街等 7 km のコンパクトな範囲を結び循環させることで、住民や観光客の利便性の確保により中心市街地の活性化を図り歩行者通行量を増加させる。また、交通インフラが整備された居住満足度の高い、安全・安心な中心市街地の形成を進めることで居住人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し [認定基本計画：地域公共交通活性化・再生総合事業地域公共交通確保維持改善事業(国土交通省)(平成 20 年度～平成 31 年度)]
目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行料 800 人／日の増加目標に対して、△480 人／日と下回り、未達成となった。
達成した(出来なかった)理由	利用者の利便性の向上や効率的な運行体系を構築することが困難であり、また、調査日が台風時と重なり、減少してしまった。
計画終了後の状況(事業効果)	1 回の乗車が 100 円、1 日フリー乗車券が 300 円と低額であることや、短い距離を乗れるという手軽さから、住民や観光客に多く利用されている。平成 28 年度には 33,000 人以上の利用者があったが、令和元年度には約 11,775 人となっている。
事業の今後について	平成 28 年度の NHK 大河ドラマ「真田丸」の放送時をピークに

て

利用者数が減少しているため、新幹線での来街者の二次交通として観光案内所等で周知を図るとともに、各バス停付近の魅力的な情報の発信を強化し、また、観光課でパンフレットを送付する際には、バスの案内を一緒に入れ込むなど、乗車率をアップさせることで、中心市街地の回遊性を向上させる。

4. 今後の対策

目標達成に向けた主要事業である賑わいのまちづくり事業は予定通り完了し、今後も継続的に事業を進めていくが、当初見込んでいたマンションの居住者による、まちなかの回遊が思いのほか少なかったことや、予想していなかった店舗の閉店・撤退が相次ぎ、空き店舗が一時的に増加したことにより、歩行者通行料が減少した。しかしながら、空き店舗バンク制度の創設や柳町など、独自に観光バスの誘致を図ることで、歩行者通行量の増加に効果があったことから、引き続き誘客促進が望める店舗の誘致や、各地区の魅力を高めていく。

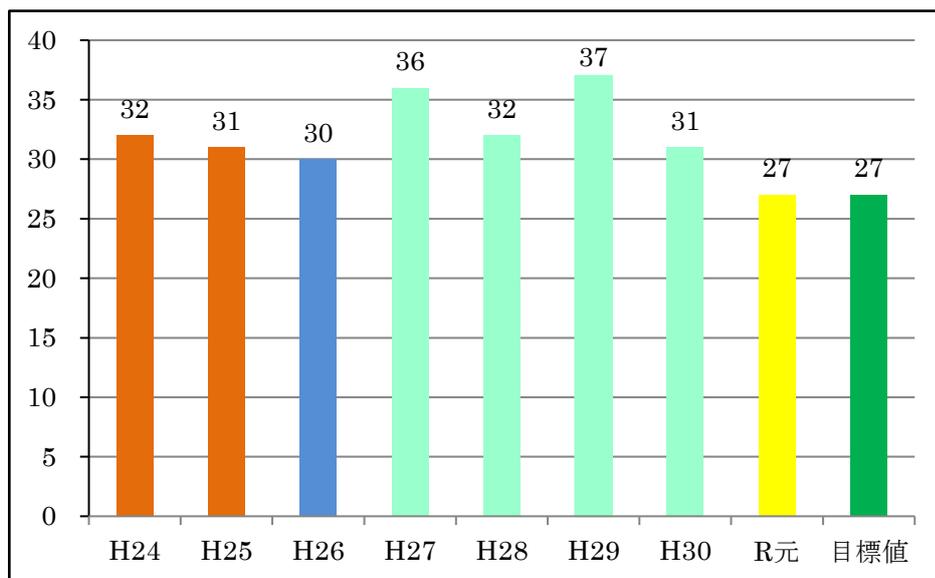
また、商店街が開催するイベントが、多くの人々が商店街に来るきっかけとなっており、商店街に対する興味にもつながっていることから、普段の歩行者通行量の増加につながり、商店街の認知度の向上やコミュニティの形成に寄与する、イベントや祭り事業を積極的に実施する。

さらに、今後、事業が予定されている新参町線電線地中化工事事業により、中心商店街から上田城跡公園までの道路整備効果を中心市街地全体に波及させ、回遊性の向上を図る。

計画終了後も中心市街地の活性化に向けて、以上のような取り組みを推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続化しているか検証するため、目標指標の測定を継続的に実施していく。

「中心商店街の空き店舗数」 ※目標設定の考え方基本計画 P74～P76 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:件)
H26	30 (基準年値)
H27	36
H28	32
H29	37
H30	31
R元	27
R元	27 (目標値)

※調査方法：中心商店街の空き店舗数を現地調査

※調査月：令和元年10月実施

※調査主体：上田商工会議所

※調査対象：中心商店街の空き店舗数

2. 目標の達成状況【 A 】

従来から実施してきたテナント出店支援事業等に加え、上田商工会議所と長野県宅地建物取引業協会上小支部が協定を締結することで、「上田まちなか空き店舗バンク制度」を創設し、空き店舗の解消に努めているほか、平成30年度から地方創生推進交付金を活用した新たな対策として、空き店舗への複合型チャレンジショップの設置・運営、店舗賃借料の補助やまちなか業種別アドバイザー制度などを主な内容とする「まちなか創業空き店舗活用事業」を創設したことから、新規出店が増加しており、平成29年には37件まで増加傾向にあった空き店舗数が、最終年度27件までに減少して目標を達成することが出来た。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 子育て中の女性がいきいきと働くための環境整備事業（上田市・(一社)ルーフサパチ）【再掲】

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	海野町商店街の空き店舗を改修し、子育て中の若い母親を対象としたコワーキングスペース、利用者のための託児所、キッチンスタジオを備えたコミュニティ施設を整備。女性の創業や就労による社会復帰を支援している。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	本事業実施により、商店街の空き店舗スペースがコワーキングスペースに生まれ変わり、空き店舗数の減少1件に寄与し、当初の目標を達成した。
達成した(出来なか	事業が計画通りに進捗しているため。

った)理由	
計画終了後の状況 (事業効果)	中心商店街の空き店舗を借り上げ、子育て中の女性が生きがいを持っていきいきと働ける環境を提供することにより、長年にわたる大規模な空き店舗の解消が図られ、空き店舗数の減少1件に寄与したほか、コワーキングスペースの存在が地域のにぎわい創出に貢献している。
事業の今後について	民間団体の努力により活動の自立化・拡大が順調に進んでおり、同拠点の一層の発展とそれに伴う集客拡大が期待される。

②. テナント出店支援事業（上田市）

事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	中心商店街の空き店舗の利活用推進を図るため、商店街の誘致により出店する場合、出店時改修に対し1/3（上限150万円）を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～平成31年度）
目標値・最新値及び達成状況	本事業実施により、計画期間中に計20件のテナント出店支援を目標としていたが、結果として計22件の出店支援を行い、目標を達成した。
達成した(出来なかった)理由	本事業とあわせて、「まちなか創業空き店舗活用事業」を実施し、上田商工会議所や地元宅建協会と連携した取り組みにより、中心市街地で創業したい者と、地域の空き店舗情報を効率的・効果的なマッチングに繋がり、支援件数が増加した。
計画終了後の状況 (事業効果)	計画期間の5年間における補助件数は、20件を目標としているが、平成27～令和元年度の補助件数は22件となり、当初目標を達成した。また、創業支援や制度融資などの別の制度を活用した出店なども多くなっている。上田商工会議所は、「上田まちなか空き店舗バンク」の創設を契機として、創業相談から店舗紹介・補助金申請までを行う窓口のワンストップ化を進めていることから、引き続き密接に連携し、本事業の利用促進を図っていく。
事業の今後について	当該補助事業と、商工会議所が実施する伴走型支援の相乗効果により近年は空き店舗の減少が顕著となっており、目標値達成に向け、制度の周知拡大等を図る。

③. まちなか創業空き店舗活用事業（上田市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	創業支援と連動する総合的な空き店舗対策として、複合型チャレンジショップの創設及び運営、空き店舗の利活用促進のために、店舗賃借料に対し1/2（出店した翌月の1年間、通算60万円上限）を補助、新規出店者に対し、商店街において同業種の営業経験を有する事業者が助言を行う、まちなか業種別アドバイザー制度の創設、空き店舗見学会の開催、まちなか創業セミナーの開催を行う。
国の支援措置名及び	地方創生推進交付金（内閣府）（平成30年度～平成32年度）

び支援期間	
目標値・最新値及び達成状況	本事業については、他の関連事業と連携させることで、中心商店街の空き店舗数を平成32年に27店舗まで減少させる目標としており、目標を達成した。
達成した(出来なかった)理由	市が実施した各種施策のほか、上田商工会議所や地元宅建協会と連携した取り組みにより、中心市街地で創業したい者と、地域の空き店舗情報を効率的・効果的なマッチングに繋がり、その後の創業相談、出店、事業継続と一貫通貫した支援が可能となった。
計画終了後の状況(事業効果)	本事業により令和元年度は、中心商店街の空き店舗を活用したチャレンジショップには3件の事業者の出店、5店舗の店舗賃借料補助、3件のアドバイザー制度の活用、空き店舗見学会141人の参加、創業セミナーを3回開催し15人が参加するなど、空き店舗数の減少と新規創業に寄与している。
事業の今後について	商工会議所等関連機関との連携を一層密にするなど、制度の周知拡大に努め、中心市街地での創業促進及び空き店舗の解消を図る。

4. 今後の対策

目標達成に向けた主要事業であるテナント出店支援事業は、計画期間中22件あり、計画当初に見込んでいた効果が十分に得られた。一方、歩行者通行量が減少傾向にあったことから、引き続き、空き店舗解消の有効な手段となっている空き店舗バンク制度のさらなる充実を図り、空き店舗見学会の効果的な開催、商店主による業種別アドバイザー制度のフォローアップ、創業セミナー及び伴走型の創業支援の強化、移住定住施策などと連動した総合的な空き店舗対策等をさらに推進することで、魅力ある商店街づくりに努め、結果として回遊性が高まり、歩行者通行量が増加することで、空き店舗への出店が増加するという好循環を生み出すことが出来るように、官民一体となって積極的に取り組んでいく。